

# 奈良県高市郡高取町清水谷方言の否定の表現

中井 精一

## I、はじめに

- (1) 調査対象地：高取町市清水谷は奈良盆地の南端にあって、古くから西国33カ所  
観音霊場6番札所壺阪山南法華寺（通称壺阪寺）の門前町として、また  
植村藩2万5000石の城下町として栄えるとともに、富山とならぶ大  
和ぐすり（売菜）の里でもある。

現在、清水谷は200戸、約700人が暮らしている。

- (2) 調査年月日時：1995年1月15日午後1時30分～3時15分  
(3) 話者：日浦政治 大正4年7月4日生（80歳）無職  
(4) 調査者・調査場所：中井精一、話者宅  
(5) 調査方法・調査時の状況：調査者ならびに被調査者が共に奈良県方言のネイティブ  
スピーカーであり、親しい間柄であることも手伝って和や  
かな雰囲気、精度の高い調査が行えたと考える。  
(6) 表記方法：調査では出来るだけ質問文に留意し、調査項目の主旨を逸脱することの  
ないよう慎重を期したつもりであるが、必ずしも全ての項目において設  
問主旨にそった回答を得ることは、調査進行上不可能であった。したが  
って、こういった箇所に関しては状況に即した対応をとり、その箇所は  
( ) で表記した。また、調査時におけるインフォーマントのコメントは  
< > に記載した。

## II、調査結果

- 1、雨が降りそうだから、今日はどこへも行かない。①「イカン」②「イ」カヘン  
単純な打消しで五段動詞に接続する場合は、「ん」・「へん」ともに活用語尾ア段  
に接続する。なお、調査地域では「イ」カヒンつまり「ひん」を用いる形式もある。
- 2、今日は、雨が降らないよ。①「フ」ラン(デ)②フ「ラ」ヘン(デ)  
被調査者は回答しなかったが、フ「ラ」ヒンも当該地域では観察される語形の一つ  
である。
- 3、今日はどこへも行きません。○「イキマセン」  
< 行きませんはイキマセン以外にどないゆうたらええねん? >  
当該地域ではです・ますを伴う表現形式では方言形は通常表出されない傾向にある。  
この項目にあえて回答を行なうとすれば、イキマヘンとなると考える。
- 4、今日はどこへも行きはしない。①「イ」カヘン②「イカン」  
設問1での回答と逆転するが、これは強調形がイカヘンで、単純な打消しがイカン

という体系をとるのではなく、強いて問えばこういった順になるということである。

- 5、先生は、今日どこへもいらっしやらない。①「イカハ`ラヒン②「イカハ`ラヘン  
「行く+待遇+打消し」の形式による回答である。①は行く（ア段）+ハ（ア段）  
+ヒン。②は行く（ア段）+ハル（ア段）+ヘン。
- 6、今日はどこへも行かなかった。①「イ`カヘンダ②「イカ`ナンダ  
奈良盆地の明治末から大正初の言語調査資料『奈良県風俗誌26言語』においも、こ  
の回答のような～ヘンダ型と～ナンダ型の2種類が混在した状況が確認されている。
- 7、今日はどこへも行きはしかなかった。○「イキ`ワ`セ`ーヘンダ  
内省によれば、「イカヘンダ」、「イカナンダ」も使用する可能性がある。したが  
って、強調形そのものの感覚は希薄ではないかと考える。
- 8、雨が降りそうだから今日はどこへも行くまい。①「イ`カヒン②「イカン  
設問に対する回答では①・②のようなものが得られたのであるが、この他にイカヘ  
ンを用いる場合もある。
- 9、雨が降りそうだから今日はどこへも出まい。①「デ`ヤ`ヒン②「デ`ー`ヘン  
設問1～8までの否定辞のバリエーションは、「ん」・「へん」（ア段接続）を主  
としていて、インフォーマントの回答に「ひん」を用いる形式はみられなかったが、  
一段動詞や語幹一音動詞との接続になると頻出するようになる。
- 10、今日は何もすまい。○「シ`ヤ`ヒン
- 11、今日はたぶん雨は降らないだろう。○フ`ラ`ヒンヤロ  
「降る（ア段）+ヒン（打消）+ヤ（断定）+ロ」
- 12、明日はきっと雨が降るにちがいない。○フ`ル`ヤロ  
「明日はきっと～ちがいない。」という予見を含んだ断定の場合、回答のように“  
予見”を優先させた「や+ろ」が用いられる傾向がある。これに対して“断定”に主た  
る意識をおいた場合には、「雨がフル」という言い切りの形や「雨ヤ」とするが一般的  
である。なお、「雨ヤ」をさらに強調する場合「雨ジャ」が用いられることもある。
- 13、今日は誰も来ない。○「キャ`ーヒン  
この他にキャーヘン・ケーヘンを用いる老年層もいる。調査地域である奈良盆地で  
は打消表現に関し一見して、「ん」・「へん」（ア段・エ段）・「ひん」を用いる4  
種のバリエーションが混在している様子が伺えるが、一段動詞や語幹一音動詞との接  
続になると「ひん」がより好んで用いられる傾向にある。また、13の回答は意図的に  
「来ない」という動作主の待遇をからまないニュートラルな形式を要求したため得ら  
れたものであるが、通常の会話であるならば、「キョラ`ヒン「来る+よる（待遇下  
向き）+ひん（否定）」となる。
- 14、今日は誰も来はしない。○「キャ`ーヒン
- 15、今日は誰も来なかった。○「キャ`ーヒンダ

- 16、今日は誰も見ない。①ミ「ヤ」ヒン②「ミー」ヒン③ミ「ン

この設問に関しては、当該地域でも「へん」による回答「ミヤヘン」や「ミーヘン」（「メーヘン」）は、ほとんど耳にすることはなく、「ひん」を用いる形式で安定していることを示しているものだと考える。

- 17、今日は誰も居ない。①「オ」レ「ヘン」②「オ」ラ「ヘン

これは待遇表現形式に関わる「おる」を用いた回答である。関西中央部では存在動詞「おる」を用いる形式は動作主に対する軽卑の意識を示すものである。（なお、この設問の回答におけるニュートラルな形式としては「イヤヘン」あるいは「ヤーヘン」が、上向きの意識・待遇を示す場合は、「ヤハラヘン」あるいは「イハレヘン」がこれに該当する。）

- 18、どこも行かずにうちにいる。○「イカン」ト

- 19、わざわざ行かなくてもよい。○「イカン」デモ

調査対象地域では五段動詞「行く」の打消形は「イカン」「イカヘン」「イケヘン」「イカヒン」等が使用されている。この中で「イカン」は若年層以下の世代ではほとんど使用されることのない形式であるが、「～ずに」（否定辞+ト）あるいは「～しなくても」（否定辞+デモ）では、古い形式の「イカン」が用いられることが多い。

- 20、わざわざ行かなければよかった。○「イカ」ナンダ「ラ

回答以外に「イカランダラ」あるいは「イカヘランダラ」が使用されるが、これらはイカナンダラよりも新しい形式である。

- 21、どうしても行かねばならない。○「イカ」ニヤ

回答以外に「イカナー」という「イカニヤ」よりも新しい形式があり、中若年層はほとんどそれを用いることが多い。

- 22、どうしても行かねばばならない。○「イカ」ニヤー「イカ」ン

設問の形式に沿って回答を行なえば、「イカニヤーイカン」となるが、より日常的に用いられるのは「ならない」の部分が「イカン」ではなく「アカン」であって、「イカニヤーアカン」あるいは、21の注に記した「イカナー」を用いた「イカナーアカン」である。

- 23、～ず ○ N、R

- 24、こちらから行きもせず、向こうから来もしない。①「イキ」モセン「シ」、「キ」モ「セン

②「イキ」モ「セー」ヘン「シ」、「キ」モ「セー」ヘン

- 25、その人の家に、明日も行くか行かないかわからない。①「イク」カ「イ」カンカ「ワカ」ラン

②「イク」カ「イ」カヘンカ「ワカ」ラヘン

II 存在・状態・判断の否定表現

26これだけしか無い。○ア「ラ」ヒン

「アラヘン」、「アレヘン」を用いる場合もあるが、「これだけしか」が前にあって強い意味を持たした回答となると、「アラヒン」もっとも調査地域的、つまり奈良盆地的な語感をもつ形式であると考えられる。

27、今年のように暑い年は無いねえ。○ア「ラ」ヒン「ナ」ア

この設問27以降の「～ない」という形式については「ある+否定辞」による回答と全国共通語を用いた形式「ナ」カッタナアに代表される「～ない」とい形式も、ほぼ同じ方言レベルで用いられる。ただ、強調形になると「ナ」カッタの方が優先されているかもしれない。

28、今年のように暑い年は、ありはしない。○「ナ」カッタ（ア「ラ」ヒンダ）

29、今年のように暑い年は、無かったねえ。○ア「ラ」ヒンダナア（「ナ」カッタナア）

30、今年のように暑い年は、ありはしなかった。○「ナ」カッタ

31、今年のように暑い年はもう無いだろう。○ア「ラヒンヤロウ」ナア

32、暑い夏なんか無ければいいのに。○「ナ」ケリヤエ「エ」ノニ

中・若年層では「ナ」カッタラ「エ」エノニが一般的である。

33、今日はあまり暑くない。○ア「ツ」ウナイ

「ア」ツイコ「トア」ラ「ヘン」という形式も存在するが、回答の方が一般的である。

また、中・若年層ではウ音便が用いられないことが多い。

34、今日はあまり暑くはない。①ア「ツ」ウハナ「イ」②「ア」ツイコ「トア」ラ「ヘン

強調形になると、「アラヘン」を用いる形式の方が優先されるかもしれない。

35、今日はあまり暑くなかった。○「ア」ツイコ「ト」ナ「カッタ

36、今日はあまり暑くはなかった。○ア「ツ」イコ「ト」ナ「カッタ

37、明日も暑くないだろう○ア「ツ」ウナ「イ」ヤロ

38、今日はあまり涼しくないねえ。○「スズ」シイコトア「ラ」ヘン

39、あまりにぎやかでない。○「ニギヤ」カヤア「ラ」ヘン

40、あまりにぎやかではない。○「ニギヤ」カヤア「ラ」ヘン

41、あまりにぎやかでなかった。①「ニギヤ」カヤ「ナ」カッタ

②「ニギヤ」カヤア「ラ」ヘンダ

42、あまりにぎやかではなかった。①「ニギヤ」カヤ「ナ」カッタ

②「ニギヤ」カヤア「ラ」ヘンダ

43、もう以前のようににぎやかでなかるう。○「ニギヤ」カヤナ「イ」ヤロウ

44、あれは花ではない。○「ハ」ナト「チャウ

### III 特定の慣用句による否定（不可・禁止）表現

- 45、（そんなことでは）いくらやってもだめだ。○「アカン」  
46、あいつはだめなやつだ。（不可）○「アカン」  
47、つまらないことを言うな。（不可）①ア「ホ」ナ ②ショウモナ「イ」  
48、行ってはいけない。（禁止）○「アカン」  
49、そんな所へは行カレン。（禁止）○「イケン」  
50、そんな所へは行くな。（禁止）○「イキ」ナ

回答の連用形＋禁止（ナ）は比較的強い意味を持つ。これを連用形による命令（軽い命令、たとえば「イキ」）のレベルにするには終助詞「や」を付け、「イキナ」ヤとすれば軽い禁止となる。

- 51、いたずらをするな ○「ス」ンナ  
「シ」ナとするより強調され、「シナとすればより軽くなる。」  
52、そんなところへ行くもんでない。○「イタ」ラ「アカン」  
53、暑くてたまらない。○「カ」ナン  
54、雨がやむのを待っていてもしかたがない。○「シャー」ナイ  
55、遠くまで歩くのは楽ではない。○「ラ」クナコ「トア「レ」ヘン」  
56、遠くまで歩きたくない。○アルキ「ト」ーナイ  
57、心配しなくても大丈夫だ。○エ「エ

### IV 否定の応答表現

- 58、いや。○イイ「ヤ」  
59、いや。（強い否定）○イイ「ヤ」  
60、いいえ。○イイ「エ」  
61、いや。（否定の問いかけに対する応答）①「ウ」ン、フッタ「デ」ー  
②イイ「ヤ」フラヘンダ「デ」ー  
62、どういたしまして。○「ナカナカ」

奈良盆地では老年層を中心に、この表現がよく用いられている。しかしながら中・若年層では、家に耕地があって会社勤めのあいまにでも農作業などをして、地域社会と密接なつながりをもつ機会のあるもの以外は、この「ナカナカ」という表現を聞きことはないと思われる。なお、この「ナカナカ」は予想を反する、あるいは案外という意味の「なかなか」からの類推で、「いえいえ」あるいは「いやいや」といった意味を持ち、「いやいやどういたしまして。」の意味の「なかなかどういたしまして。」の「どういたしまして」の部分が省略されたもの。

V 不可能の表現

63、私はできない。○「ヨーセン

64、読むことができない。(状況) ①「ヨ`メン ②ヨ`マ`レヘン (可能・ヨメル)

単純打消は●ヨマン	●ヨマヘン	●ヨメヘン	●ヨマヒン
(不可能)	ヨメン	ヨメヘン	ヨマレヘン

奈良盆地の打消表現では、これまで上のような組み合わせが一般的なものとして観察されてきたが、単純打消において「ヨマン」あるいは「ヨマヘン」を用いる場合、必ずしも従来からの組み合わせに限定されることなく、不可能表現では「ヨマレヘン」を使用する傾向にある。

65、読むことができない。(能力) ○「ヨー`ヨマ`ン

66、こんなはでな服を着ては、街へ出られない。○デ`ラ`レ`ヘン

67、この草は食べられない。○ク`ワ`レ`ヘン

68、忙しくて昼飯も食べることができない。○タベ`ラ`レ`ヘン

五段動詞の場合に比べ、「未然形+可能的助動詞(レ)+ヘン」の形式が早くから定着していることが予見される。

VI 反語・反発の強調表現

69、そんなこと、おれが知るものか。○`シル`カ

70、そんな所へ誰が行くものか。○`ダレガイク`カイナ

71、そんな所へなんで行くか。(行くものか。) ○ナンデ`イク`ンド`イ

72、なんで恥ずかしいものか。○ナンデ`ハズ`カシネ`ン

73、行かないでおるものか。(行くとも) ○`イカ`イデカー

74、それがお前にやれるか。○`デケルカ`イナ

75、そんなにいやならシテイラン。○`モウー`エ`エ`ガナ

VII 特定の副詞の関わる否定表現 (付、否定形式の見られる特定副詞)

76、略て世間おれもかどらない。(少しも~ない) ○ヒット`ツ`モ`スス`マンガナ

77、仕事がぜんぜんできてない。(ぜんぜん~ない) ○`サ`ッバリ`アカン

78、雨がいっこうに降らない。(いっこうに~ない) ○ヒット`ツ`モフ`ラ`ヒン

79、今年も雨があまり降らない。(あまり~ない) ○`アンマリフ`ラン

80、芋が(予想外に)たくさんとれた。○`ドイ`ライ

## VII その他否定形式の関わる諸表現

- 81、わざわざ行かなくてもいいではないか。○エ「エ」ヤナ「イ」カ  
82、わざわざ行かなくてもいいのてではないか。○エ「エ」ノト「チャウカ  
83、わざわざ行かなくてもいいかもしれない。○エエ「カ」モ「シレン  
84、いっしょに行かないか。○「イコカ  
85、これを持ってくれないか。○モツ「テ」ヨ ○「サゲ」テヨ  
86、これを持ってくれませんか。○モツテ「クレハラ」ヘンカ  
87、これを持って下さいませんか。○モツテ「クレハリマセン」カ  
88、早く行かないと。(～行けば。)①「イカン」ト ②「イカン」ナ

## III、総括(まとめ)

奈良盆地の南部に位置する高市郡高取町清水谷の老年層を対象としたこの報告では、これまで西宮一民氏や鏡味明克氏によって示された奈良県方言に関する諸報告と大きく異なるところはない。

しかしながら細部においては、たとえば五段動詞「行く」を例にすれば、その単純打消形は、県内全域における古い形式である「イカン」あるいは「イカヒン」や、京都と同じ形式である「イカヘン」といったものがこの地域の主たる形式であるとされてきた。けれども今回の調査では、かつては奈良盆地の南部域でほとんど使用の認められることのなかった大阪的な「イケヘン」の使用、すなわち在来形式のA段で接続する形式「イカヒン」や「イカヘン」の領域内に、大阪で優勢とされるエ段接続の「イケヘン」が受け入れられていることが確認できたのである。

また、状況可能打消形においても従来は京都と同じ形式の「イケヘン」が当該地域では優勢とされてきたが、今回の調査では「イカレヘン」に代表される大阪的な「未然形+可能の助動詞(レ)+ヘン」の形式が、(ヨマレヘン・デラレヘン・クワレヘン)が、安定した状態で使用されていることが確認されたのである。

以上のように、近世後期以降京都・大阪という二大都市をそれぞれ核として成立し、周辺地域に伝播・定着した打消表現形式が、今、大阪という都市が周辺地域に対してもつ「都市権威」を背景に、在来形式を強烈な勢いで変容させている状況が、今回の調査で改めて確認され、関西中央部域での打消表現形式が一つの方向で収束にむかっていることを予見させられるのである。

## 参考文献

榎垣 実【1946】『京言葉』(高桐書院)

金沢裕之【1995】「明治期大阪語の打消表現」(『近代語研究』第2号 ひつじ書房)

- 岸江信介【1991】「京都・大阪ことばの争い」（名古屋方言研究会第79回例会資料）
- 岸江信介・中井精一【1994】「京都～大阪間方言グロットグラム」（『地域語資料』1）
- 真田信治【1995】「大阪ことばの変容をめくって」（『関西方言の社会言語学』 世界思想社）
- 清水 浩【1991】「東熊野街道における言語の動態について」（『地域言語』第3号）  
報告書）
- 中井精一【1993】「都市言語の形成とその受容をめくって」（『都市人の発見』 木耳社）
- 西宮一民【1962】「奈良県方言」（『近畿方言の総合的研究』 三省堂）
- 日高水穂【1994】「近畿地方の動詞の否定形」（『方言文法』第1号）
- 前田 勇【1949】『大阪弁の研究』（朝日新聞社）
- 山本俊治【1952】「大阪方言における否定法」（『近畿方言』第1号）

（ なかい せいいち 天理大学附属博物館 ）